

校長挨拶

「15歳の春を笑顔で迎えるために」これは、中学校教育が目指す目標であり、1つの通過点を表す言葉です。中学校はこの大切な通過点を集大成として目指す教育機関です。3年の卒業を素敵な笑顔で迎え、誇りをもって自分の選んだ道に進むこどもたちを育てるために、私たちは全力でこどもたちに関わり、使命を果たして行きたいと思います。

中学校の時期は、心も身体も激しく変化する中、周りの人間関係も広がり、激しく揺れ動きながら、成長していく時期です。人はこの時期を様々な表現で呼んでいます。成長期、思春期、反抗期、青春時代・・・云々。どれも、揺れ動きながら輝きを放とうとする、若いこどもたちの姿を的確に言い当てています。人生の中で、最も強烈に輝くこの時期に、こどもたちと関わることができることは、中学校の教職員という職業の最大の魅力であると考えます。また、成長し続けるこどもたちとの関わりの中で、教職員として、人として自分自身も成長することのできる実感を味わえることも大きな喜びです。

中学生は、成長しつつ、大人を超えようと必死にもがきます。これまで身に付けてきた価値観、経験値などに疑問を持ち悩みます。自己解決を繰り返す中で、自己の価値を認め、他者を尊重し、自己決定を積み重ねることで、自己肯定感を高めつつ、自己実現を図ります。15歳の春は、自分の進むべき道を自ら決定し、広い世界へ旅立つ人生で最初の大きな岐路です。私たち大人は、こどもたちのこの成長に適切に関与しつつ、理不尽な力のぶつかり合いではなく、大人への健全な成長の姿として、こどもたちが超えるべきハードルとしてうまく超えさせてあげることが役目であると思います。努力によって、目標としていた大人を超えていく事の積み重ねの中で、真の学力や体力、精神力が育まれるものと考えています。

これまで、全国の学校の多くが、コロナ後の学校づくりに向けて「新しい学校の在り方」を本格的に、しかも抜本的な変化を目指して改革を進めてきました。本校においても、新たな魏町中学校のあるべき姿を構築するべく、全教職員の総力を集め創造してきました。今後も一つ一つの課題と正対し、地域の皆様のお力をお借りしつつ、保護者の皆様と志を一つにし、こどもたちの未来につながる教育を進めてまいりたいと思います。

校長 堀越 勉

